

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和中学校	校長氏名	村田 聡之	生徒指導主事氏名	濱原 光伸
取組事例名 『吉中太鼓』					
取組のねらい『キーワード 自己存在感を高める』					
<p>今から 29 年前、「荒れた生徒の立て直しと学校への定着」を念じて生まれたものである。当時の吉和中学校は、暴力行為も多発し、学校に位置付かない生徒たちを、どうやったら学校に位置付けることができるか、課題のある生徒の居場所づくりを目的として誕生した。その後、太鼓を通じて自己存在感を高めることを目的に、全生徒を対象として、「心で打つ太鼓」を目指している。</p>					
取組の具体的内容『キーワード 主体的な学び』					
<p>総合的な学習の時間を利用して、毎週学年に応じた練習を行っている。文化祭・バチの受け渡し式ではそれぞれの学年が、練習してきた成果を発表している。また、3 年生は校内での発表にとどまらず、地域のイベントや、尾道市のイベントにも積極的に参加している。発表の場をいくつか設定することで、1・2 年生は、3 年生の太鼓を目標に、3 年生は今回よりは次回の演奏と、録画したビデオで自分たちの演奏を振り返り、曲を聴いてくれる方々をいかにして感動させるかを、自ら考え練習に励んでいる。</p>					
取組の課題・創意工夫『キーワード 継承』					
<p>現在の 3 年生が 29 期生となり、練習は退職された吉中太鼓創始者の先生の協力のもと、本校職員で指導に当たっている。しかし、誰もが指導できるわけではなく、メインで指導している職員も本校の在職期間が長く、次の指導の後継者に毎年悩んでいる。</p> <p>生徒については、毎年 3 月に「バチの受け渡し式」を通じ、儀式的に次の吉中太鼓のリーダーを育てる取組につながっている。</p>					
取組の成果（効果）『キーワード 太鼓が人を変える』					
<p>3 年生になり、人前での発表が増える頃になると、3 年生の意識が変わり、ルールを守らなかった生徒も、リーダーや周りの生徒の声かけにより、次第に集団の中に入って行っている。</p> <p>更に太鼓の頭(リーダー)は、太鼓の練習を仕切るだけにとどまらず、吉和中学校を仕切っていくリーダーとして大きく成長し、吉和中学校に在籍する、すべての生徒のあこがれのリーダーへと成長している。</p>					
今後の展開『キーワード 吉和中で学んで良かった』					
<p>ここ数年、本校への入学者が大きく減っている。吉中太鼓の取組を通して、主体的な学びを継承し、生徒の自己存在感を高め、吉和中で学んで良かったと言える生徒を多く輩出していきたい。</p>					
他校へのアドバイス『キーワード オリジナル』					
<p>ひとつの行事を継続することの大切さと、自分の学校にしかできない学びを大切にしていって欲しい。</p>					